

2023年度「学びの実態調査」

Doshisha Univ. Student Learning Experience Survey AY2023

～調査結果ダイジェスト～



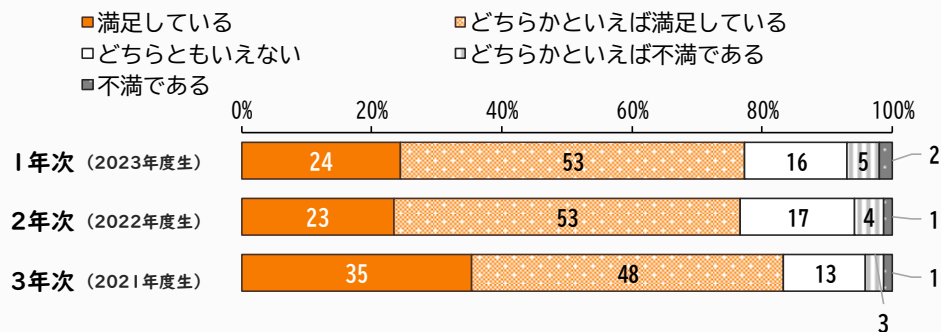
同志社大学

Doshisha University



2023年度「学びの実態調査」結果概要

本学の教育全般に対する満足度



本学の教育全般に満足している（「満足している」または「どちらかといえば満足している」）学生の割合は、1年次生、2年次生で8割弱、3年次生では8割を超える。最も多かった回答は「どちらかといえば満足している」で、いずれの学年でも5割前後を占めている。

大学で学ぶことは楽しい

非常にそう思う+どちらかといえばそう思う



いずれの学年でも、8割以上の学生が「大学で学ぶことは楽しい」と感じている。

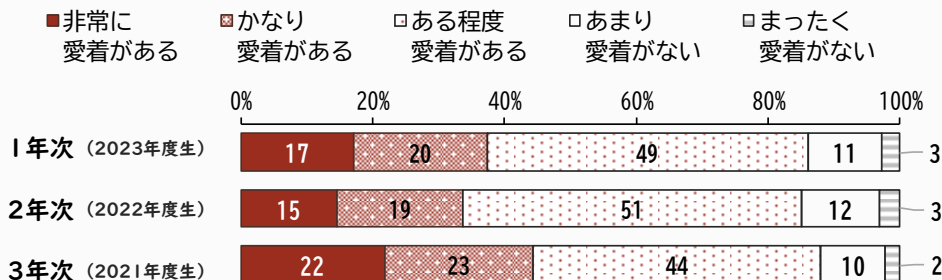
自分なりに計画を立てて、勉強や研究に取り組んでいる

あてはまる+ややあてはまる



「計画を立てて勉強や研究に取り組んでいる」学生の割合は、1年次生、2年次生では7割程度、3年次生で8割弱と3年次の方が高い。

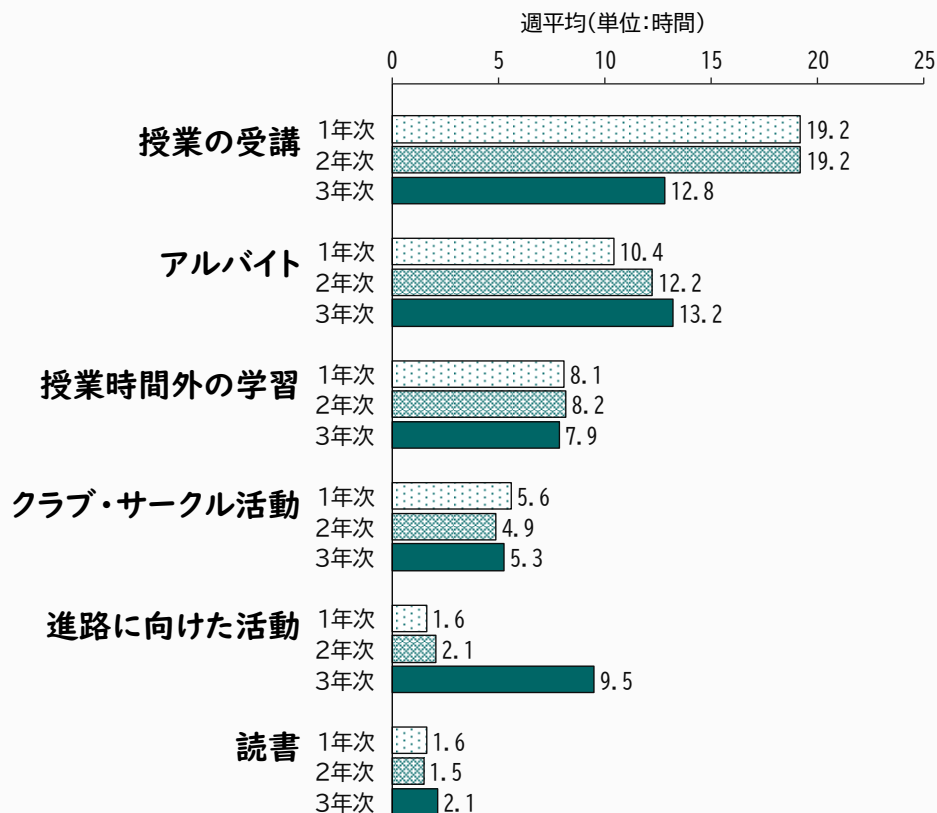
本学への愛着



本学に愛着がある（「非常に愛着がある」または「かなり愛着がある」または「ある程度愛着がある」）と回答した学生の割合は、いずれの学年でも8割を超える。1年次生、2年次生よりも3年次生の方が「非常に愛着がある」と回答した学生の割合がやや高い。

2023年度「学びの実態調査」結果概要

1週間あたりの平均活動時間



「授業の受講」時間は、1年次生、2年次生の方が3年次生よりも6時間以上長い。一方で「読書」時間や「進路に向けた活動」の時間は1年次生、2年次生よりも3年次生の方が長い。また、「アルバイト」に費やす時間は、学年が上がるほど長くなる。

授業内容について、他の学生と教え合ったり情報交換をしたりする

ひんばんにあった+ときどきあった



「他の学生と教えあったり情報交換をしたりする」学生は、3年次よりも1年次、2年次の方が高い。また、昨年度の調査結果と比較すると、いずれの学年でも10ポイント以上増加している。

授業内容について教員に質問をする

よくした+たまにした



「授業内容について教員に質問をする」学生の割合は、いずれの学年でも5割を超える。上級生の方がやや高い傾向にあり、1年次よりも3年次の方が5ポイント程度高い。

2023年度「学びの実態調査」実施概要

◆対象者…学部1～3年次の正規学生（2023年度生～2021年度生）

◆調査期間…2023年11月1日～11月22日

◆実施方法…WEB調査（Microsoft Formsを利用）

◆回答状況…【有効回答数】1年次…1,467件、2年次…1,011件、3年次…810件
【有効回答率】1年次…22.6%、2年次…15.9%、3年次…13.1%

◆調査の趣旨…

「学びの実態調査」は、本学独自の学修行動調査である。学生に自身の学びへの取り組み方、受け止め方を自己評価してもらい、その結果にもとづいて、より良い教育プログラムを開発することを目的としている。本調査は2021年度まで実施していた「キャンパスライフに関するアンケート調査」を前身としており、2022年度から正課教育に関する設問の比重を以前より増やした「学びの実態調査」として実施している。

◆主な調査項目…

- ①回答した学生のプロフィール（大学入学前の第1志望先、通学区分）
- ②正課内外の学びへの取り組み（授業経験、授業内外の学習状況、生活時間、クラブ・サークルへの加入状況など）
- ③学びの受け止め方（所属学科のディプロマ・ポリシーの到達度、能力・スキルの獲得実感、大学への適応感、教育満足度、生活実感など）
- ④卒業後の希望進路

◆回答者へのフィードバック…

本調査に回答した調査対象者には、調査実施年度の3月（成績通知のタイミング）に、自身の学びや成長を振り返るための「個別フィードバック情報」を提供している。